

第1回米原市臨時教育委員会

日 時：平成26年2月24日
午後5時00分開会
場 所：山東庁舎1階
1C会議室

(出席者)

教 育 委 員：稲村委員長 河居委員長職務代理者 堀田委員 小路委員
山本教育長
教 育 部 長：坪井部長
教 育 総 務 課：田中課長 山田課長補佐 仲谷課長補佐
学 校 教 育 課：岡田課長
書 記：田中

1 開 会

2 委員長あいさつ

- 本日は、前回の定例教育委員会で確認していました2つの協議事項にしぼって議論を行いたいと思います。資料等の準備をしていただき大変御苦労様です。

3 協議事項

(1) 米原市保幼小中学校統合整備計画について

【教育総務課】

委 員：子ども達にとって望ましい教育環境を考えていかなければならない。整備計画にあたっての基本的な考え方に小・中学校は1学年が複数学級で編制されることが望ましいとあるが、米原市の実情に合った考え方を検討してはどうか。小規模校の特色を生かしてというものの、子ども達が切磋琢磨して共に学び合い、学級内で球技などのスポーツができる学級編成となるとある程度の人数が必要になる。柏原学区のように保育園から小・中学校へ同じメンバーで進学して人間関係が固定されている場合、プラス面とマイナス面がある。この状況の中で、子ども達にどういう力を付けていくかを探らなくてはならない。市長の意向も含みながら統合整備計画を見直してはどうか。柏原中学校と河南中学校を全く同じというわけにはいかないので、河南中学校の今後の方向性を検討しなくてはならないが、必ず通学の問題が出てくる。

事務局：小中学校の学級編成が18人から35人程度在籍し、1学年が複数学級で編制される

ことが望ましい規模であるというのは、在り方検討委員会での答申の中身をそのまま持ってきています。あれから何年か経過して、特に近年特別支援を要する子ども達が増えつつある中で、本当に35人の学級編成が望ましいのかと言うと、現実には先生がきめ細かく対応できる人数として35人は厳しい。守山市では32、33人で市独自で学級編成を行っているとのこと。18人以下となるとグループ学習など、学級集団として考えたときにあまりにも少ない。この点は、議論のテーマだと思います。柏原中学校の統廃合は白紙撤回という状況の中、今年度の予算編成でも、あくまで小規模校の特色を生かした学校づくり、支援のための予算反映がなされているので、その経緯について評価もしながら見直しが必要だと考えています。整備計画の前期5年で見直しを図るといふ文言を大事にしていく必要があると思います。柏原中学校は白紙撤回でも整備計画に載っている短期計画はどうかという話があった時に、教育委員会としてはこの短期計画を中・長期計画に延ばして小規模校の在り方を支援しながら成果を検証していくとするのか、柏原中学校の短期計画は白紙なので、撤回して中・長期計画も無しにしてしまうのか意見が分かれるところだと思います。河南中学校については、地域から統合して欲しいという要望もない状況で、議論があまりなされなかったのが現状です。市長選挙での政策提案の中では柏原中学校だけが焦点となって、河南中学校はあまり出ていませんでした。河南中学校は5年目の計画見直しの中で検討を行うとなっています。そのため、26年度は特色ある学校づくりの発表をしてもらい、地域を交えて地域に根ざした学校づくりのフォーラムを行う予定ですので、そこから入り込むことができます。柏原中学校の短期計画を中・長期計画にすると、柏原中学校区は先に延びただけで統合はしてもらえとの期待感を持たれる場合があり、その辺の判断が非常に難しいと考えています。皆さんに意見を出していただきたいと思います。

委員：柏原中学校と大東中学校の短期計画は実情に合っていないので、まずは中・長期計画に変更せざるを得ない。去年の市長選挙までの柏原中学校区の状況を聞いていの中で、統合して欲しいという考えの人も多かったのではないかと。統合して欲しいという人の意見の集約はどうなっているのか。市長の意見はあると思うが、改めて今後、中・長期的にどうするかという区民の皆さんの意見をきちんと掴まなければならない。

委員：在り方検討委員会で一旦中・長期計画としたのが、地域の保護者の意見で短期計画になった経緯があるので、この辺の保護者の意見をどうするのか。小規模校の在り方は、今の段階でどのようなビジョンをもって小規模校を維持していくのが具体的に見えてこない。この辺を明確にしておいた方がいい。先延ばしばかりしてられないので、ある程度のことを決めないといけない。柏原学区で今後生徒数が増加することは有り得ないですね。

事務局：柏原小学校では大体1学年20人後半、30人を切ったところ。です。

委員：米原市の学校は全部小規模校なのですか。

事務局：小規模校です。大東中学校、双葉中学校は、適正規模校です。

委員：小規模校の在り方を検討するとあるが、何を検討するのか。

事務局：小規模校だからこそ地域の人材を学校の教育に如何に活用していくか、総合的な学習の題材にしても地域の人の活力を活かし、地域に支えられる学校づくりを進める。コミュニティスクール的な学校運営を行うことで地域の資源を取り入れて、子ども達が地域との関わりをより密にしながら教育を進める。当然、教科の先生は少ないので、どの学年も1人の先生が教える形になると思いますが、それは仕方のないこととして地域に根差した学校の活性化を目指します。

委員：小学校では分かりますが、中学校は主要教科の先生が全部配属されないと厳しいのではないですか。

事務局：足りない教科の先生は、市の予算で充当して支援を行う必要があります。

委員：最近は子どもの課題も変わってきているので、学級の人数はもう少し少人数が望ましいという結論にならざるを得ない。それで学級編制をしていった場合の足りない部分は市費で教員を補わなければならない。政策的に教育にもっとお金をかけてもらう。地域の人材を取り込むにも限度がある。小学校だといろいろ考えられるが、中学校は入ってもらう機会が少ない。

事務局：今まで開かれた学校と言いながら、学校には入りづらいという印象が強い。米原市としては意識を変えてもらうための動きをしなくてはならない。柏原中学校の場合、部活動のために区域外就学を希望する生徒が今年も6人いる。学校の中で地域人材を活用しながら、大東中学校まで行かなくてもクラブ活動ができるような働きかけが出来ないか、校長とも話をしています。

委員：地域の人を巻き込むのは長い期間維持していくシステムを作っていないと苦しいのではないかと思います。校長が変わる度にやり方を直すわけにはいかないし、地域の高齢化や人口減少があるので難しいと思います。

事務局：地域の人に学校に入っただくことで、専門的な指導を行ってもらえる安心感や充実感があります。

委員：総合型地域スポーツクラブに、その部分をフォローしてもらえるような仕組みを作った方が良いと思います。

委員：やりたい部活のために他の学校を希望する子に道が開かれているのに、それを抑えるのは厳しいでしょうが、将来的には抑える何かがないとどんどん増えていきます。先生一人一人の子ども達への説得力が大事になってきますね。昔は少ない人数でありながら、きめ細かな授業を受けておられたと聞いていますが、小規模校でありながら先生が収めきれない学校がありますので、先生の子どもの心を捉える力が凄く重要になってくると思います。

事務局：23年3月に教育委員会として統合整備計画を出した時に議論が十分になされたのか

訊かれることがあります。

事務局：小規模校の学力は利点となってきますが、社会性ということで考えると足りない部分が出てくるので、地域の力を借りる。例えば中学校では小規模校は学力を維持する利点があるが、部活動が少なくなってくるので、地域の人に部活動を見ていただく。また、小学校から中学校に入る時に安定した集団の中で成長してもらいたいという思いがあるので、部活動の関係で他の学校に出ていくことに関しては、地域の中学校に行くことの大切さの話をしながら対応しています。全国的には保護者・生徒のニーズを把握して、選択制の流れになっています。

委員：原則は、自分の専門の種目でなくても学校にある部活に参加して体力づくりをする。好きな部活があるから他の学校に行くという考え方はどうなのか。

事務局：指導は行っていますが、現実にはスポ少との関係で国が許容範囲を広げているため、米原市もそのような方針を出しています。昔とは価値観が違います。

事務局：大原小学校のスポーツ少年団と一緒に活動していた関係で、同じ大東中学校に行きたいとの希望でしたが、河南小学校の子どもと一緒に活動していたら河南中学校に進学していた可能性もあります。大東中学校が多くの部活を持っていたこともありますが、今後、各中学校が特色ある部活を作って、他の地域の生徒を受け入れるということも大切です。

委員：学校の魅力をどうアピールするかですね。

事務局：大東中学校へ進学すべき子がホッケーのために伊吹山中学校へ行くというパターンもあります。

委員：小規模校だと学力が高いということは有り得ますね。少人数であれば授業もし易いでしょう。

事務局：少人数の学級では、教室が広く感じます。座席の配置にしても子どもの中に心のゆとりを感じる部分があると思います。いろいろな子どもが居て様々なことを学びますが、少人数だからこそ理解し合い、仲が良いという話を柏原中学校の先生から聞きました。柏原中学校の生徒は仲が良く指導がし易いし、1人の先生が2年、3年と担任を持ち上がるので、指導の一貫性が出るとのことでした。

委員：担任が持ち上がりをせず、毎年変わる学校もありますね。

委員：担任が持ち上がりで変わらないのは良いこともあるが、マイナス面もあり、一概に言えない。学力については、低学力の子にどこまできめ細かい指導ができるかが問題です。基本的には人数が少ない方がきめ細かい指導ができるだろうという仮説はできるが、それを何人とするのか。基準とすべき児童・生徒数の指針で小中学校の学級編成を「18人～35人程度」となっているのを「最低何人程度」と改めてはどうか。

事務局：1学級18人というのは、36人児童がいればクラスを2つに分けることができるということから出てきた数字です。最低でも18人の学級ということです。

委員：指針の文章を「米原市の現状から、小中学校は1学年単学級編成としても18人～35人程度が在籍していることが望ましい。」として、「中学校は1学年複数学級で編制できることが望ましい規模である。」を削ってしまってもいいでしょうか。

事務局：現行の統合整備計画はそのまま、学級編制の指針についての議論を改めて行いたいということですか。それとも現行計画の見直しに踏み込んで議論を行うということでしょうか。

委員：柏原中学校、大東中学校の短期計画は、平成26年度まで検討し、平成27年度に統合としているが、現状にそぐわなくなっている。少なくとも短期計画については見直しせざるを得ない。検討期間をどこまで延ばすかを議論して、統合のニュアンスは残しておかなければならない。

事務局：中・長期計画に変更したということを出すと期待感を持たせてしまう。現時点では、柏原中学校の統合計画は中・長期計画も全て白紙撤回として、平成26年度、27年度で学校規模の状況も見ながら検討は行うとする。

委員：市長が在職中は、柏原中学校の統合は白紙ですが、市長が替わったら元に戻ることがあり得るのですか。

事務局：あくまで教育委員会としての議論をしていただけたらいいのですが、中・長期計画とすると期待感を持たせてしまうので、どうなのかと思います。27年度に見直しを行うという前提が残っていればいいと思います。

委員：見直しを行わないとしてしまうのはいけないし、保護者の中には大東中学校と統合して欲しいという意見もあるので、その部分は残していかないといけないと感じます。

委員：現在は白紙撤回でも、5年の短期計画の検討期間終了時に柏原中学校の生徒数、河南中学校の生徒数がどうなっているのか、市長が替わることがあれば統合計画が浮上することが考えられますね。議論するにしても教育委員会の内輪だけの話ということになりますね。

委員：米原市全体を見たときに、中学校としては1クラス最低何人とし、それ以上の人数の場合は、複数学級とするのが望ましいとするくらいしか出来ないと思います。旧町の意識が根強く残っている中で、校区の見直しも視野に入れなくてはならない。それによってスクールバスの運行もより効率的に考えることが出来ると思いますが、見直しには何年もかかる難しい問題です。

委員：柏原中学校については、26、27年度に委員会を立ち上げる等、検討する場を設けてはどうか。

事務局：27年度の見直しの時には議論する場が必要だと思います。

委員：計画を議論するには、財政状況を見ていかなければならないのでは。

事務局：当初の計画で、統廃合に伴う既存施設の有効利用を検討するという部分で財政の意見が入っていると思います。

事務局：学校統合でどちらか一方の施設に寄せて利用する、どちらか片方を改修して利用することが計画の背景にあります。

委員：小規模特認校とは。

事務局：コミュニティスクール的なもので地域の人々の支えにより良い学校を目指す、地域の特色を出した特認校というものです。計画は、5年経過した時点で進捗状況を踏まえ見直しを行いますが、柏原中学校については現に見直しせざるを得ない状況なので、どう考えるか。計画は現在白紙ですが、27年度に向けて小規模校の学校運営の精査を行っていくとしか言えないと思います。

事務局：現行計画の見直しを行うという方向・方針が、市長選挙で結果が出た。市の教育委員会としても責任を持った立場で計画の見直しについて議論を始めている。26年度に計画案が出来れば修正できるし、27年度になったとしても予定どおりとなります。

事務局：27年度に向けた見直しの議論を行っていますが、柏原中学校については白紙、現状維持の状態で議論を進めているという形になります。

事務局：去年、短期計画を撤回するなら中・長期計画に直すような意見がありましたが、修正しないまま今日まで来ている。教委としての基本的な考え方を整理しないと市民説明ができない。

委員：米原保育園は市の施設で指定管理者が運営しているそうですが、米原地区にも認定こども園を作るという計画で進んでいますね。

事務局：在り方検討委員会で検討していただいた上で、整備計画の見直しを考えるという段階です。保幼は現在進行形で進めている部分と、検討している部分があります。

事務局：米原地区の保幼については、在り方検討委員会で最終的な答申が出てきます。ある程度方向は出ていますが、統合計画とは違ったものになってきます。

委員：小規模特認校というのは切り札になるのでしょうか。

事務局：小規模特認校については受け止め方が様々です。市長の考えは小規模の良さを生かしたコミュニティスクール的な学校としてやれないかというものです。若干、特認校の意味合いが違ってきます。

委員：柏原小学校、柏原中学校を小中一貫校として、地域の方に入っていただきながら小学校と中学校の連携強化を図ってはどうか。

事務局：小中学校共通の地域の運営協議会的なものがある、小学校にも中学校にも地域の人々が支援をしていくスタイルが取れないかとの投げかけをしています。

委員：他の学校に区域外通学をする前に、柏原中学校として子ども達がどのような部活が欲しいのか、将来的にどのようなことがしたいのかを早いうちに見て、柏原独自の教育を考えないと、ますます生徒数が少なくなってしまう。

委員：小中一貫校というのも一つの考え方かも知れません。中学校だけで見ていくと少人数過ぎて活気がない。小中学校一貫で先進校に学びながら地域に根差した学校を考えていく方向もありますね。

事務局：小規模校の在り方として、それも一つの選択肢です。

委員：地域に居たいという思いを起こさせるような学校を考える。

委員：小規模校でのマイナス面をどうカバーしていくか。地域に根ざした学校づくりをしていくのに、もう一つ何かあるといい。

事務局：当初の計画にあがっていた学級編成の人数についての議論、小中一貫校についての議論もありました。統合整備計画の根幹を見直すには時間が必要なので、統合整備計画の見直しまではいかなくても教育委員会として現在新たに議論を行っているという整理はできると思います。

委員：教育委員会のメンバーだけでなく、現場の校長、教頭の意見を訊くようにしてはどうか。

事務局：以前の在り方検討委員会というやり方ではなく、教育委員会の議論の場に学校の先生や学校評議員の方に入ってもらって議論を行う。

委員：その議論の場での発言が、どれだけ意味を持つかですね。

事務局：組織の位置づけがどうなるかという問題があります。

事務局：柏原中学校については、短期計画は白紙撤回で打消しということで良いですね。

委員：子どもの数が減ってくるので、永久に白紙撤回というわけにはいかないのでは。

事務局：26年度、27年度の見直し期間の中で考えればいいと思います。現時点では、白紙ということですが。今年は学校運営に関わる予算を付けてもらっています。特色ある学校づくりの検証も含めて取り組んでもらいます。

事務局：いろんな検討をする上での判断材料になると思います。

委員：校園長会の後に、校区ごとに情報交換会を行う取組を教育委員会の施策として打ち出すのも一つの手だと思います。校区としての子どもの課題や通学の問題を共有する。

事務局：この議論を臨時の教育委員会としてではなく、任意の協議をする場を設けて行うという整理もできるかと思います。

委員：実績を残していくことが必要です。気になる所がそれぞれあると思いますがまた次の機会に議論したいと思います。

(2) スクールバスについて

【教育総務課】

委員長：各学校で置かれた状況が違うので、特に要望が強い地域については、はっきりと案を出してはどうか。学校を交えながら地域の意見を聞いて何か対応をしてはどうか。

事務局：菅江の場合は通学距離が2キロ以上、集落間の距離があいていて民家がないので、低学年だけで帰る時は安心安全を考えてカモン号の利用をしたら、磯や上丹生とのバランスも取れるのではないかと思います。週に何回かは低学年だけで帰る

日がありますね。

事務局：菅江は週2回。月曜日は不定期ですが、それを入れると週3日です。弥高については、伊吹小学校も同じように週2～3日は低学年だけで下校します。

事務局：弥高の通学路も集落間があいています。長久寺も同様です。その辺で判断できないかと思います。

事務局：通学距離2キロという部分で見直しを進める中で、菅江にしても弥高にしても2キロを超えるということには踏み込まず、集落間が離れていることが一つの理由になると思います。

事務局：集落間が離れていることを理由として対応する場合、要望があがっているのは菅江、弥高、長久寺です。制度を作る以上、それ以外に該当する地域がないのか確認する必要があります。声があがった地域だけ対応するというわけにはいきません。

委員：長年要望があった地域は取りあえず対応して、全体についてはこれから検討していくとしてはどうか。

事務局：何年も継続して強く要望されている地域について限定で対応するのはいいと思います。スクールガードが多いので大丈夫という地域もあると思います。

委員：各学校にスクールバスを配車するとなると、かなりの予算が必要ですね。

事務局：菅江はスクールバスでの送迎を要望されていて、代替としてカモン号による通学についての情報提供は行っていません。

事務局：スクールバスの行程と乗車人数を考慮したら、カモン号の利用が一番良い方法だったと説明すれば理解されると思います。

事務局：通学費用は市が全額負担するので、支出に関するルールを持っていないと問題が出てくる。

事務局：制度として整理しておかないと行政として説明が出来なくなります。

委員：通学距離が2キロ以上、低学年だけの下校、集落間の距離があり民家が途切れている地域について調べる必要がある。

事務局：米原地域は、湖国バスとまいちゃん号の利用に学年制限がある。他の地域は全学年を対象としているので、今後の課題になる。

委員：近江地域はスクールガードの登録が多い。大変ありがたいことです。

事務局：新しい制度を作るには学校統合だけを理由とするのではなく、きちんとした理由が必要なので、現状を調べてから発信しなくてはならないと思います。

4 その他

5 閉会

次回

第3回定例教育委員会 3月20日(木) 午後2時00分～

山東庁舎 3階 第2委員会室

以上をもって第1回臨時教育委員会を午後7時30分に終了した。